

1ターン留学
にいがたイナカレッジ

～ムラに学ぶ、ヒトに学ぶ、
自分らしいライフスタイルを実現する～

公益社団法人 中越防災安全推進機構
ムラビト・デザインセンター

『にいがたイナカレッジ』事業実績（主なものを抜粋）

都市の人たち向け

地域の人たち・外部支援者・行政向け

基金

1 ターン留学『にいがたイナカレッジ』首都圏プラットフォーム事業

目的：都市の人たちを対象に、中越地域のPR、インターンシップ・各種ツアー等の参加者集めなど、都市部で様々な仕掛けを行うために人員を配置。移住希望者の多くは移住したい特定の地域を持っている訳ではないので、青田刈りを狙う。
内容：NPO法人ETIC（社会起業家育成、移住促進、地域活性化等に取り組む団体）をはじめ、全国で地域づくりに取り組む若手が主体となった民間団体との各種コラボ企画・実施によるイナカレッジの知名度アップ。移住女子コンテンツの開発・PRによる中山間地域の情報発信。

委託

にいがたライフスタイルカフェ

目的：新潟・農山村等に興味を持つ人を増やす。個人情報の取得。
内容：東京で“地方”“新潟”を喚起するイベントを6回開催（テーマ『移住夫婦』『ローカルビジネス』『“移住だけじゃない”地方とかかわり方』『地域をコーディネートする仕事』『食を仕事にする暮らし』『新しい働き方』）イベント参加者を対象にテーマに応じたツアー等を企画・実施。

委託

にいがた暮らし相談員設置業務

目的：新潟県への移住・交流人口の増加を図る。首都圏の移住希望者の実態把握および個人情報の取得。
内容：認定NPO法人ふるさと帰郷支援センター内に『にいがた暮らしコーディネーター』を配置し、移住相談および県内市町村への橋渡し役を担う。

自主

全国地域仕掛け人市（NPO法人ETICほか全国の団体）

目的：中越に興味を持つ人を増やす。個人情報の取得。インターン参加者確保
内容：首都圏の若者を対象に全国各地で活躍する地域の“仕掛け人”とのマッチングイベントを開催（具体的に各地域で実施しているプログラム等の人材募集）。全国の若手地域づくりリーダーと実行委員会形式で実施。800人規模のイベント。H28年は10月に東京恵比寿で開催。

申請

1 ターン留学『にいがたイナカレッジ』地域イノベーター留学（NPO法人ETIC／中小企業庁）

目的：中越に興味を持つ人、都市部のサポーターづくり。個人情報の取得。
内容：地方に興味がある社会人×地元若手×地域の人たちによる地域課題の解決に向けた計画立案等を行う2泊3日×2回の地域づくりツアーを開催（全国12か所）。長岡市小国町法未集落の『やまびこ』の持続的な運営の構築に向けて、集客増のための体験プログラムづくりなど。

申請

1 ターン留学『にいがたイナカレッジ』中小企業経営革新プログラム（NPO法人ETIC／ゴールドマンサックス）

目的：企業経営等をテーマにしたインターンプログラムの開発
内容：地方企業の具体的な経営課題の解決に対して、大学生のインターンを通じて、経営改善を図るプログラム。小国和紙生産組合「海外向け営業ツール開発」、Mt.ファームわかとちの「農産物の販路開拓」などをテーマに、大学生が6か月間地域に住み込み活動。

自主

1 ターン留学『にいがたイナカレッジ』学生インターン

目的：学生の学び・成長×地域・企業の課題解決を図りつつ、地域のサポーター・担い手を確保・育成
内容：【期間】1か月／【生活費補助】なし（ただしイナカレッジ奨学金制度創設／【滞在費】無料／【主な対象】学生／【プログラム】単なる労働力の提供・受入ではなく、受入地域・企業の課題等の解決を図るために実施する“テーマ設定型・課題解決型インターンシッププログラム”。【実施地域】県内全域で8地域・企業／【実績】9地域・企業、22名の学生を受け入れ

基金

1 ターン留学『にいがたイナカレッジ』長期インターンシップ

目的：中越の農山村の担い手確保・育成
内容：【期間】1年間／【生活費補助】5万円/月／【滞在費】無料／【主な対象】社会人（学生）H27年度修了者8名のうち6名が定住。現在5名が活動中

地方に関わるきっかけづくり

首都圏交流イベント

都市部に住みながら地方を体験

ツアー・通い

期間限定で移住・お試し体験

短期インターン

移住したい

長期インターン、地域おこし協力隊

定住したい

就職支援・起業支援など

基金

1 ターン留学『にいがたイナカレッジ』実践研究

目的：地域づくりにおける実践的な知見の蓄積と波及
内容：地域復興支援員、地域住民等と連携して、地域づくりにおけるテーマ毎の活動を実施し、ノウハウ等を蓄積共有する。テーマ：「農村起業」「女性」「外部人材の確保・育成」「野生動物」「森林資源」「農業経営」「エネルギー」など。年度後半には、各研究成果を発表する「公開ゼミ」を開催。

委託

地域将来ビジョン策定業務（〇〇市〇〇地区）

目的：〇〇市〇〇地区における地域ビジョンづくりと具体的アクションの検討・策定
内容：地域住民へのヒアリングやワークショップ等を通じて、課題の整理、地域の目指す方向性、それらにもとづく具体的な活動展開などを定めるとともに、翌年度からそれらを実践する。

委託

移住者受入モデル事業コーディネート業務（〇〇市）

目的：〇〇市〇〇集落を中心とする移住者受入の機運づくり・体制づくり
内容：米倉集落を新発田市内の移住者受入のモデル地区と位置づけ、集落内での話し合い、空き家を活用した拠点づくり、ツアー及び短期インターンの実施など。

自主

イナカレッジインターンシップ・コーディネーター研修

目的：インターンシップ事業を現場でコーディネートする人材を育成することで、県内で実施するインターンシップ事業の質的向上を図る。
内容：インターンシップ事業の目標設定、プログラムの設計、告知手法、マッチングのポイント、インターンシップ期間中の進捗管理の手法などを学ぶ講座・ワークショップを開催。

委託

移住者受入トップランナー支援事業

目的：県内の移住者受入の機運づくり・体制づくり
内容：地域住民等を対象に、移住者を受け入れるための具体的なノウハウなどを学ぶ研修会を実施（県内7か所）。各回ワークショップを通じて、移住者受入を活性化していくための具体的なアイデア出しを行う。

委託

地域おこし協力隊導入コーディネート業務（〇〇市）

目的：〇〇市の地域おこし協力隊導入にあたっての各種サポート
内容：・受入地域の掘り起し、合意形成／・行政職員研修・サポート／・地域おこし協力隊募集活動／・導入後の協力隊・地域・行政のフォローアップなど

委託

地域おこし協力隊フォローアップ業務（◇◇市）

目的：集落点検、◇◇市地域おこし協力隊導入等の各種サポート
内容：・集落点検後のプロセスデザイン／・受入地域の掘り起し、合意形成／・行政職員研修・サポート／・地域おこし協力隊募集活動など

委託

地域おこし協力隊活動支援業務

目的：新潟県内の地域おこし協力隊の円滑な運用をサポート
内容：新任協力隊対象、任期終了を見据えた協力隊対象研修会をそれぞれ実施

委託

道の駅開業支援業務、農地利活用可能性調査業務

内容：平成30年度の開業に向けて、道の駅整備に向けた基本構想・基本計画策定をサポート。土地改良事業に伴う今後の農地利活用構想の策定

地域に関わるきっかけづくり

(イベント)



ライフスタイルカフェ



全国地域仕掛け人市



「脱・東京」という選択
～よくばりな20代女子の生き方を探る

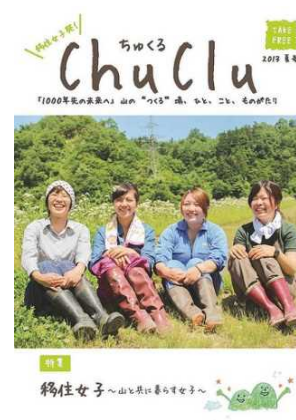
(発信)



ローカル食堂



移住促進ポスター
(新潟県)



フリーペーパー『ChuClu』

都市部に住みながら地方を体験

(通いプログラム)



地域イノベーター留学



ウサギ狩りツアー



『人に会いに行く旅』



『地域を書く合宿』

期間限定で移住・トライアル体験

(短期インターンシップ)



(平成28年度) **9地域・22名** (大学生)



移住したい（長期インターンシップ）

（長期インターンシップ）



（平成26年度）参加者 **8名** → 定住者 **7名**

（平成27年度）参加者 **8名** → 定住者 **6名**（他、大学卒業後H30.4に **+1名** 移住予定）

（平成28年度）参加者 **5名** → 定住者 **5名**

（定住後の仕事）



カフェオープン



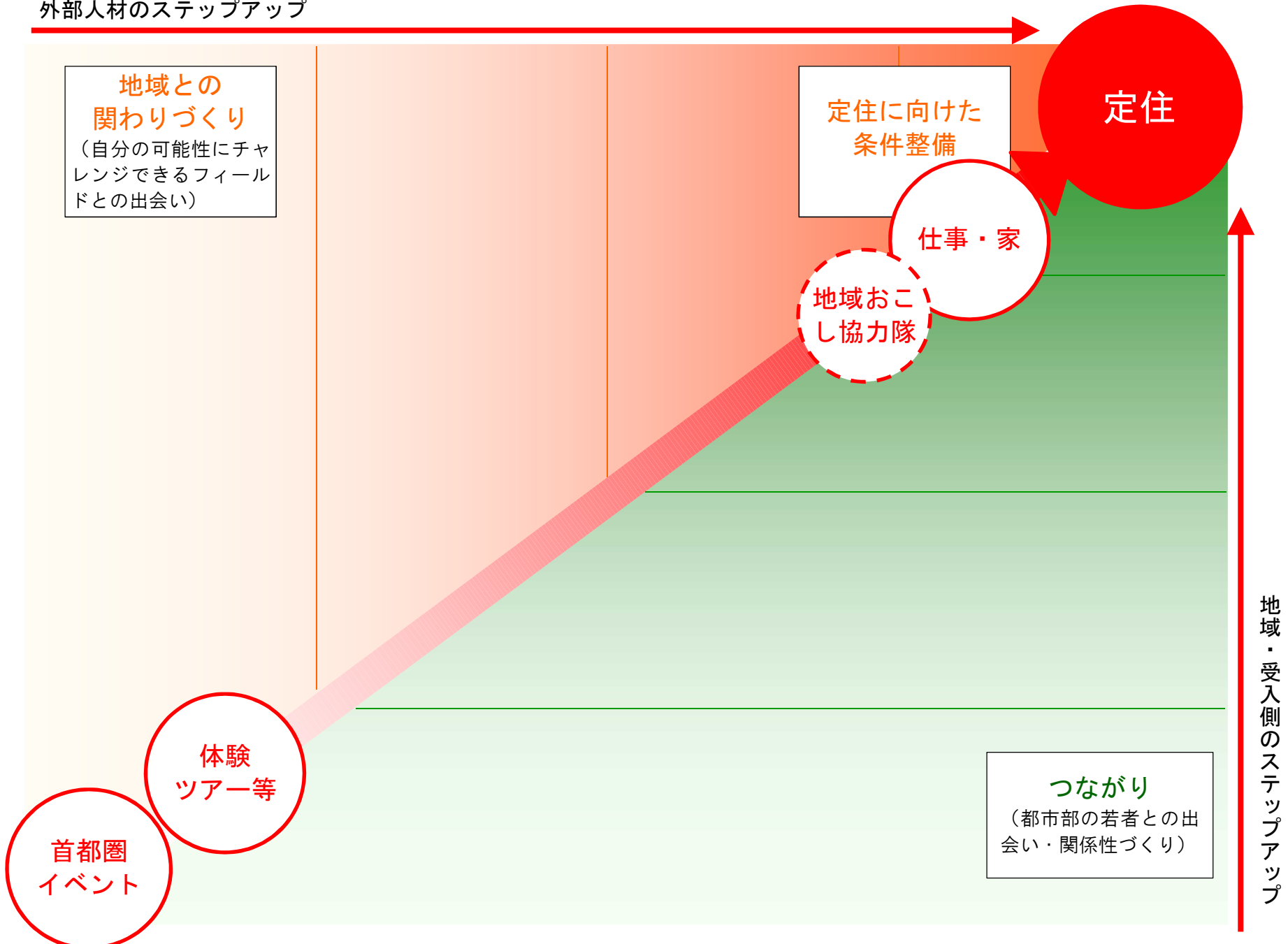
農業法人、NPOなどへの就職



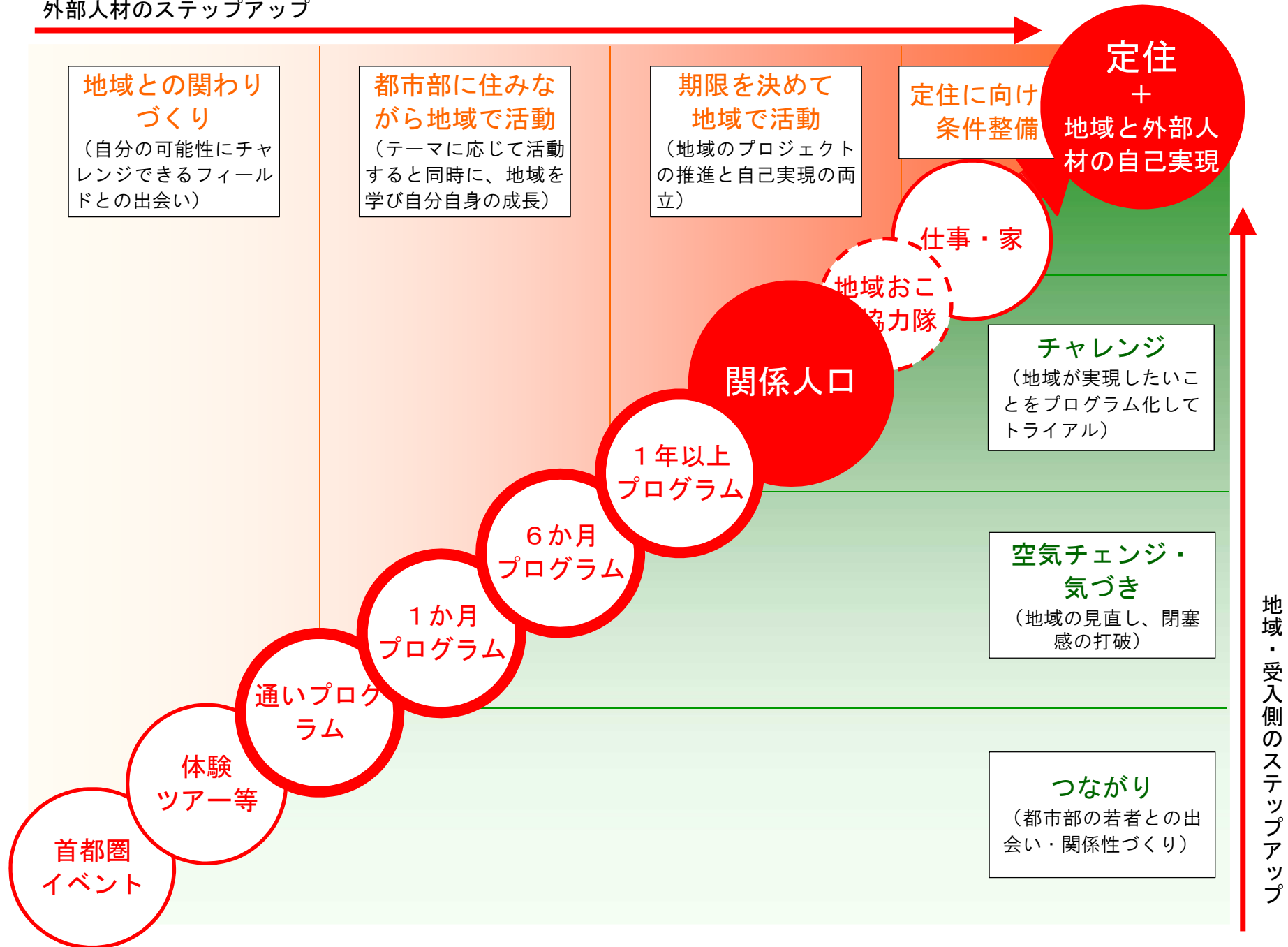
新規就農

担い手・移住の取組の考え方

外部人材のステップアップ



外部人材のステップアップ





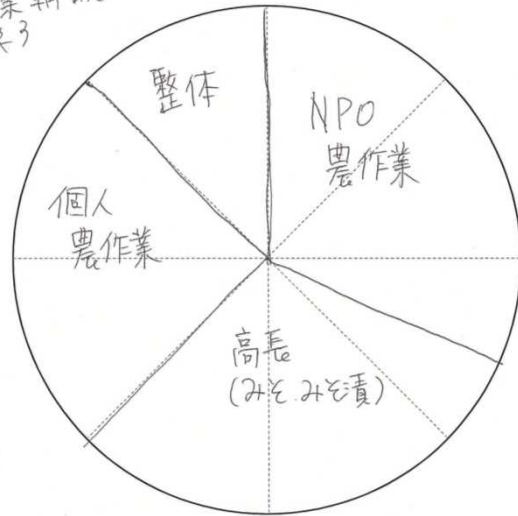
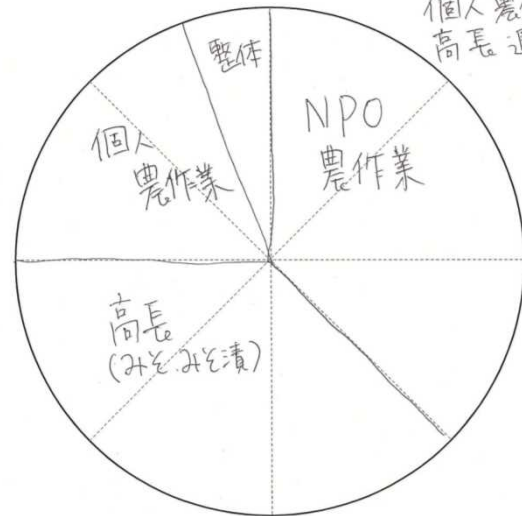
Mさん(男)整体師・農家 シェアハウス3人暮らし



春～秋

あなたの活動を“時間”で割ると
(100%全ての活動時間)

あなたの活動を“収入”で割ると
(100%全収入)

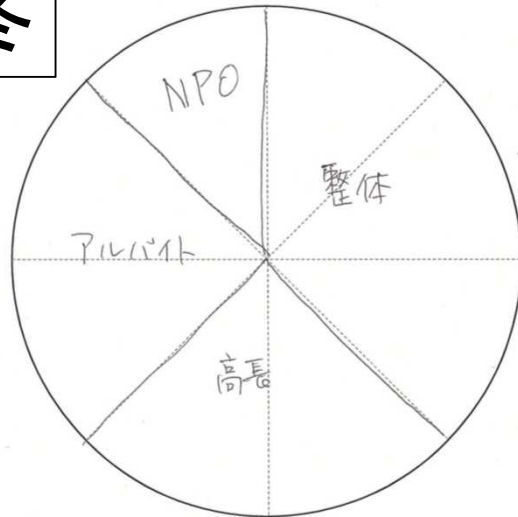
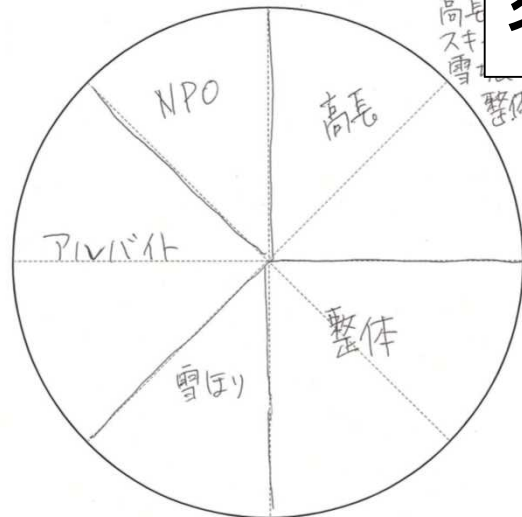


NPO 農作業
個人農作業 朝晩
高長 週末

あなたの活動を“時間”で割ると
(100%全ての活動時間)

あなたの活動を“収入”で割ると
(100%全収入)

冬



NPO
高長
スキー
雪
整体

整体＋農作業
という2極スタイルの
暮らしを目指している。

春～秋と冬でそのバランス
が変化している。



栽培しているキノコの生育状況を確認する山縣洋之さん
|| 柏崎市市野新田

おかえり きのこ園

1ターンの男性 3年ぶり復活

柏崎 飲食スペースも計画

柏崎市の市野新田きのこ園が3年ぶりに再開された。県内に1ターンしてきた山縣洋之さん（東京都出身）が中心となり、ナメコやマイタケの栽培を行っている。市内の飲食スペースも将来的に計画している。将来的に飲食ができる交流の場を目指す。

約40年前に開園した「山きのこ園」には、キノコの販売のほか、食堂などがあった。観光バスのグループも訪れていた。閉園した。約40年前に開園した「山きのこ園」には、キノコの販売のほか、食堂などがあった。観光バスのグループも訪れていた。閉園した。

同年に長岡市に1ターンしてきた山縣さんは、市野

これからの農山漁村地域の地域づくり

『ムラの暮らしてってサイコー！！』

って思ってくれる人がたくさんいる地域が残っていく。

そこに住む、住まないに関わらず、地域の“暮らし”に共感し、**地域の人たちと一緒に、汗を流し、活動してくれる人**



多様な担い手（色んなかたちで地域に関わる人）

こういった人の中から、
その地域に実際に住む人が現れる。

期間限定移住

～ 1 か月インターン～

【テーマ設定型・実践型インターン】

『テーマ設定型・実践型インターン』が必要な理由

体験型インターンシップ

【受入地域】

- 数週間の農作業体験プログラムを実施。地域住民は教えるだけで、作業に慣れたところでインターンが終わってしまう。
→疲労感・徒労感しか残らない
- 色々と提案してくれたが、それっきり尻切れトンボ
→地域で実行されない

【参加者】

- 繁忙期でひたすら農作業。これってバイト？わざわざ新潟に来て参加する意味があったのか？
→どういう目的でインターンを行ったのか？
- 色々と地域に提案したのに、何も実行されない
→自分たちの役割は何だったのか？

イナカレッジのインターンシップ（テーマ設定型・実践型インターン）

- ◆単なる労働力の提供・受入ではない！！
- ◆目的・インターン修了後の到達目標が明確で、インターン期間中にそこに到達する道筋が定められていること
- ◆これらを受入地域とコーディネーターが共有できていること

『テーマ設定型・実践型インターンシップ』とは、目的や仮説などをあらかじめ明確にし、修了後の目標とそこに到達するロードマップが設定されているインターンシップ・プログラムです。

H28年度 1 か月インターンの概要

地域デザインコース（3地域／8人）

地域・集落が取り組む地域づくり活動のなかで、具体的なテーマや課題を設定し、それに対して学生が定められた期間のなかで、ミッションを達成していくプログラム。地域の活動の延長線上にプログラムを設定。



ビジネスデザインコース（6社／14人）

地域の中で頑張る中小企業のなかで、企業が抱えている課題の解決、あるいは新規事業の立ち上げや市場調査などをインターンシップのプログラムとして実施。



インターンシップ活用事例①「蓬平温泉旅館」(6週間+4週間)

【内容】

若年層を呼び込むための宿泊プランを作成する。

【成果目標】

首都圏の若者が温泉地蓬平で若者向けの宿泊プランを企画する。企画したプランを実現させるために各企業に学生が営業に行きプランを煮詰めていく。最終的には旅館に企画案を提出して修了。

【具体的な成果】

- ①平成29年1月から3月の期間限定で、試運転的にプランを実施することが決定。
- ②プランを作成するにあたって、連携企業との話し合いの場が多くなった。

(副次的な成果)

- ・3館合同での話し合いの場ができ、初めてお互いに意見交換ができた。
- ・ソト者から見た蓬平の良さを教えてもらった。
- ・地元住民と協力してイベントを実施できた。

【インターン終了後の動き】

- ・この冬に試験的に実施するプランに対して各企業や旅館内の各部署と調整中。
- ・JTBの情報誌に掲載するので女将とどのような情報を載せて募集するのか検討中。
- ・蓬平の住民からインターン生を受け入れたいとのこと。今後、協議する予定。(空き家情報含む)



インターンシップ活用事例② 「(有)割烹柳屋」(4週間)

【内容】

中之島地域の農家へ訪問し農作業等の体験をしながら、地域で育てられている野菜を学ぶ。その野菜を使って、板長と女将と共に、地域の野菜を使ったメニュー開発を行う。

【成果目標】

中之島地域の野菜を使った割烹の新しいメニュー開発

【具体的な成果】

農家さんほか一般からも公募したお客さんが参加した「中之島の野菜を楽しむ会」を実施し開発したメニューのお披露目を行った。

(副次的な成果)

- ・新しいお客さん、取引農家の獲得
- ・割烹の新しい役割への気づき(和食やマナーを伝える役割)
- ・地域内での割烹柳屋のイメージ向上(若い子を育てている)
- ・地域内(今町、中之島)でのインターンシップの認知。
次もやってみたいという雰囲気。

【インターン終了後の動き】

- ・地域内の他事業者、商店街でのインターンシップ実施の検討。
- ・インターン生と割烹の継続的な関係が生まれている(アルバイト、相談など)。
- ・インターン生がお世話になった農家へ恩返しをするために独自に、農家を取材し、SNSで魅力を発信する活動を始めた。
- ・女将が、若い子に和食やマナーを子どもたちに教えるための取り組みを始めた。



インターンシップ活用事例③ 「(株) Mt.ファームわかとち」 (6ヶ月)

【内容】

インターンのミッションは農家に“売る”視点をつくることです。このインターンでは、集落の暮らしを学んだり、実際の米の生産の現場を学ぶのはもちろん、(株)Mt.ファームわかとちの社員として米を販売するために必要な、webページやSNSページをデザイナーと協力して作成し個人消費者向けの販路拡大へと繋がります。

【成果目標】

米の販売力の向上、売り上げUP

【具体的な成果】

○米の販売促進

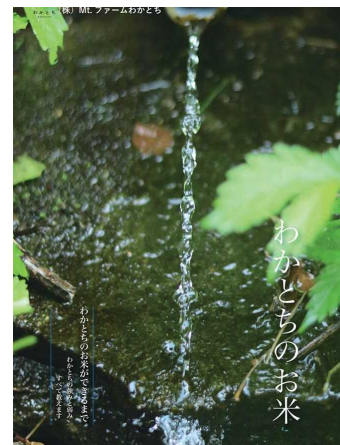
- ・農家民宿のお客さんにDM発送し、アンケートと新米購入の働きかけ。
- ・米をPRするための冊子を制作。
- ・H29年新米の販売額が1ヶ月で昨年を超えた(H29年10月時点)
販売額 752,400円(143件・1,330kg) → 828,100円(59件・1,174kg)
平均客単価 定期 23,000円 → 52,562円 / 単発 3,495円 → 4,411円

○加工品の販売促進

- ・フリマアプリを活用した販売増
- ・社員へのラベルやPOPのデザイン指導

○農家民宿の蔵の改装

- ・4月オープンを目指し、蔵をBARに改装。
- ・改装作業、運営体制づくりなど



インターンシップ活用事例③ 「(株) Mt.ファームわかとち」

6ヶ月間の大まかな流れ(実施前の計画)

【STEP1(1カ月～2カ月)】「地域、会社、農業の現状を知る」

まずは、地域と会社、そして農業の現状を知るために現場で実際に体験します。

- 社長や地域の農家にヒアリング
- 農家民宿の宿泊者にヒアリング

【STEP2(3カ月～4カ月)】「販売ツールの作成、市場調査」

米を売るためのwebページの作成や実際に都内のマルシェ等に出展し、売る実践を行います。

- マルシェの出展
- 営業同行
- webページの作成
- SNSページの作成、運用

【STEP3(5カ月～6カ月)】「売り込み、販路開拓」

商談会やマルシェに出展し米の販売先を獲得していきます。

- 商談会参加
- 単独営業
- マルシェ出展
- リピーターが定着するための仕組みづくり



1 か月－6ヶ月インターンの効果

【地域にとって】

○プロジェクトの推進

→もともと地域で取り組むべき活動などを学生の力を借りて進めることができる。

○地域の前向きな変化（移住者の受入体制づくりなど）

→外部の人材を受け入れることのイメージと楽しさが地域内で共有でき、移住者受入の機運づくり、受入体制づくりなどにつながっていく（特に外部人材を受け入れたことのない地域ほど顕著）

→これにより、地域おこし協力隊や移住者受入などの施策が講じやすくなる。

○関係人口の増加

→地域の暮らしや人、活動などに共感し、一緒に汗をかいてくれる人材が生まれる。（場合によっては、卒業後に移住することも）

【参加者（学生）にとって】

○自分自身の成長

→体験型のインターン等では味わえない苦勞と終了後の達成感、プロジェクトを通じて地域の人たちと苦勞を共にすることで生まれる真のつながりと気づき、など

○今後の生き方を考える上での分岐点

→インターンでの経験がその後の進路に大きな影響を与えることも少なくない。

○第2のふるさと

→いつでも帰って来られる場所ができる。（場合によっては、卒業後に定住することも）

1 か月インターンの効果

平成28年度の大学生を対象とした1 か月インターンの実績

実施か所	9地域
参加者	22人
うち4年生	6人
新潟への移住希望者	4人(うち2人は内定を蹴って)
実際に移住した人	3人(うち1人は本当に内定を蹴って新潟に)

※このほかH29年度に大学を休学して、前年度のインターン先で活動している人：1名

※このインターンがきっかけで受入先に通ったり活動している人：多数

平成29年度の1 か月インターン生たちのレポート

<http://inacollege.jp/blog/member/2017natsu/>

平成28年度の1 か月インターン生たちのレポート

<http://inacollege.jp/blog/member/2016summer/>

是非ご一読ください。ウルっとくるレポートもあります。

1 か月インターン実施にあたって地域・企業で用意いただくもの

- ◆ インターンを実施するにあたってのプログラムのテーマ
 - 地域の中で、今後取り組んでいきたい活動、地域が抱えている課題など
 - 企業の中で、今後進めていきたいプロジェクトなど

- ◆ プロジェクト担当者
 - 地域・企業の中で、学生が1か月間インターンを行うための“実務担当者”
(学生への指導・アドバイス役)

- ◆ 1か月の滞在環境
 - 家、移動手段(必要に応じて)
 - 家賃、水道光熱費等

- ◆ 大勢の人が関わる体制
 - 地域・企業の中で、学生数名に対してたくさんの人が関われる体制

移住・定住とは？

移住・定住を決意した理由

「（ムラの）この人たちのような大人になりたい」

「ムラの考え方に共感。自分もムラの一員になって、
地域づくりを一緒にしていきたい」

「こういった暮らしを自分もしていきたい」

ムラの “ヒト” “ライフスタイル（暮らし）”
に共感して移住